

## 事業事前評価表

### 国際協力機構 東・中央アジア部中央アジア・コーカサス課

#### 1. 案件名（国名）

国名：ウズベキスタン共和国

案件名：国境税関大型貨物用検査機材整備計画

The Project for the Installation of X-ray Scanning Equipment at the Check Points of Uzbekistan Borders with the Neighboring Countries in the Republic of Uzbekistan

#### 2. 事業の背景と必要性

##### (1) 当該国における運輸セクター/中央アジア地域の現状と課題

ウズベキスタン共和国は中央アジアのほぼ中央に位置するため、貿易の重要な経路地である。一方、国際機関等の報告によれば、南部のアフガニスタンからは大量の武器や麻薬が同国を経由して、世界に輸出されており、同国にも流入している。国際機関の報告によると、2007年には世界中に流通するアヘンの92%がアフガニスタンで収穫されたとみられ、2006年の中央アジアでのヘロイン摘発量は過去10年間の4倍に達した(United Nations Office on Drugs and Crime)。そのため、同国政府は国境税関のうちリスクが高い箇所を指定し、麻薬・武器の摘発対策に取り組んでいる。また、中央アジア域内での通関に関しては、その他の憂慮すべき問題点として、法律運用の統一性・透明性の欠如、通関業務の長時間化、非効率性、輸送コスト増大、職権の乱用、不正商品のすり抜け、徴税率の低下等が同国貿易の障壁となっている。

##### (2) 当該国における運輸セクター/中央アジア地域の開発政策における本事業の位置づけ

こうした中で、同国国家税関委員会(SCC)は中期整備計画(2007-2010年)の重点施策として税関行政の改革に着手し、法令の改正(一元化)、組織改善、税関職員統制の強化、世界税関機構(WCO)の基準との統一化・調和化による税関システム改善を図っている。また、2006年に制定された「情報技術(IT)政策の基本構想」では、IT機器導入による税関設備の近代化に係る施策が定められ、大型X線検査機材の設置等、税関インフラの整備が計画された。具体的には、2012年までに①統一税関情報システムの構築(データベースのオンライン化)、②非開被検査100%実施を目標とする大型X線検査機材の整備等、国内各地の税関所の拡充計画が立てられた。

WCOも「国際貿易の安全確保及び円滑化のためのWCO『基準の枠組み』」を2005年に策定し、同国がこれに参加の意向を表明したのに対し、2008年3月、SCCに対し非合法物流入のリスクが高い国境税関所において、X線検査機材等の導入による非開被検査体制の整備を勧告した

こうした背景のもと、SCCは国内での効率的・効果的な税関検査を行うとともに、隣接する地域から流入する麻薬や武器等の非合法物資の摘発強化を図るため、同国の主要国境税関16か所に大型X線検査機材を設置することを計画した。本事業は、この整備計画のうち、特に緊急度が高い税関所(3箇所)における機材整備を実施するものである。

##### (3) 運輸セクター/中央アジア地域に対する我が国及びJICAの援助方針と実績

我が国は、運輸インフラの更新と適切な維持管理、域内の経済発展と安定の基盤となる

国際輸送ネットワークの確立を目指し、今まで、鉄道新線建設（有償）や道路維持管理機材の供与（無償）を域内で実施した。加えて、当該地域の社会的安定性を確保するため、本事業の第一期目として、アイリトン総合税関所及びオイベク税関所に車載型 X 線検査機材を供与した。また、非合法物資の取締り等を含めた国際犯罪に対する刑事司法能力強化研修を実施した。

### 3. 事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

タジキスタン、アフガニスタン国境において、大型貨物用 X 線検査機材の整備や税関職員に対する技術訓練を行うことにより、通関所要時間の短縮や透過検査実施率の向上を図り、もって、非合法物資の流入防止による社会的安定と効率的な輸送ネットワークの確立に寄与する。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

スルハンダリア州アイリトン総合税関所（アフガニスタン国境）、スルハンダリヤ州ガラバ税関所（アフガニスタン国境）、タシケント州オイベク税関所（タジキスタン国境）

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機器等の内容：大型貨物用 X 線検査機材（車載用）2 台及び大型鉄道貨物用 X 線検査機材 1 台の調達・据付

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：国家税関委員会職員を対象とした X 線検査技術に関する技術指導

(4) 総事業費/概算協力額（詳細計画作成時）

総事業費 8.36 億円（概算協力額（日本側）：8.27 億円、ウズベキスタン国側：0.09 億円）

※ 日本側概算協力額 8.27 億円のうち、第一期 4.67 億円（外務省により実施）、第二期 3.60 億円

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2010 年 3 月～2013 年 2 月を予定（計 36 ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

実施機関：国家税関委員会（The State Customs Committee; SCC）

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 C

② 影響と緩和・軽減策 放射線防護のための立ち入り禁止区域の設定、管理区設定等

2) 貧困削減促進 該当なし。

3) ジェンダー 該当なし。

(8) 他援助機関等との連携・役割分担 該当なし。

(9) その他特記事項 特になし。

### 4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

実施機関が、機材受入のための基礎工事・盛土工事、機材の維持管理に必要な人員の配置及び運営・維持管理に係る経費負担の義務を果たす。

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

- ・ 実施機関の体制に大きな変更がない。
- ・ 周辺諸国の治安が極度に悪化しない。
- ・ 周辺諸国との関係が極度に悪化しない。

## 5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

過去、同国で実施した案件の経験から、技術移転を確実にするために、機材操作保守マニュアルをロシア語またはウズベク語で作成する必要がある。

## 6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

### (1) 妥当性

本事業による効率的・効果的な税関検査業務の整備は、ウ国国家税関委員会(SCC)の中期整備計画(2007-2010年)にて掲げる税関行政の改革に合致し、また、2006年に制定された「情報技術(IT)政策の基本構想」の重点施策であるIT機器導入による税関設備の近代化政策に合致している。また近年増加している非合法物資の流入を防止することで、社会的安定に資すると共に、中央アジア域内の高い輸送コストの低減につながり、効率的な輸送ネットワークに確立に資することから、妥当性は高い。

2(3)記載のとおり、当該地域の社会的安定と輸送ネットワークの確立を目指す我が国の援助政策にも合致しており、妥当性は高い。

### (2) 有効性

#### 1) 定量的効果

指標名	基準値(2009年)	目標値(2015年)【事業完成3年後】
対象税関における大型貨物の透過検査実施率(%)	0(手作業)	100
同通関所要時間(分)	180~300	20~30

#### 2) 定性的効果

- ・ 対象税関所における非合法物の摘発件数/量の増大が見込まれる。
- ・ 書類審査、概観検査、詳細検査の従来の検査業務にX検査が加わることにより、税関データベースが充実し、効率的なリスク管理が可能となる。
- ・ 機材運用手法の普及により、税関職員が効率的、効果的な税関検査業務に従事可能となる。
- ・ 非合法物流出入の抑止効果が高まる。
- ・ 社会悪物資のウ国内流入が減少することにより、国民の福祉向上、社会安定化に資する。
- ・ 輸送コストの削減により物流のさらなる拡大等の経済効果が増大する。

## 7. 今後の評価計画

### (1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2)1)のとおり。

### (2) 今後の評価のタイミング

- ・ 事後評価 事業完成3年後

以上